

## 松野了二先生への献辞

総合管理学部長 松尾 隆

松野了二先生は20年間の長きにわたり総合管理学部の発展のために尽力されて来られました。当学部は成人式を迎えましたが、その自立した姿を見届けるかのように、先生は2014年3月31日をもって定年退職されることとなります。まず何よりも先生の当学部への多大なる貢献に対して、お礼の言葉を述べさせていただきます。

松野先生は1974年に熊本大学大学院工学研究科修士課程電子工学専攻を修了したのち、同年有明高専電気工学科に赴任され、20年の間奉職されておりました。そして1994年4月の総合管理学部の発足と同時に着任され、以来情報関連科目の教育において責任ある役割を担われて来られました。またこの間、先生は学内業務においても重責を果たされています。なかでも先生が附属図書館と総合管理学部の長としてのポストに就かれた2005年4月から2008年3月までの3年間は、熊本県立大学が公立大学法人として産声を上げた時で、加えて附属図書館及び外国語教育センター等が改組され、新たに学術情報メディアセンターが設置された時でもあり、まさしく大学にとって大変革期に当たります。慎ましやかな性格ですので、先生からはついぞお聞きする機会はありませんでしたが、当時のご苦勞は並々ならぬものであったであろう、と思われまふ。

ところで、松野先生の専門領域は情報科学であり、具体的な研究は「コンピュータの教育への利用」に関するもので、有明高専時代から現在に至るまで、一貫して、時に沈潜して、取り組まれた課題です。もっとも、時代や環境変化と共に、その内容は推移します。高専時代は当初は中型コンピュータが教育の世界へ導入された時代でした。しかしその後、教育の場でもパーソナルコンピュータが主役に躍り出るようになったことから、それに伴い先生の研究も前者から後者に適合した教育支援システムの開発へと移ることになります。さらに当学部着任後、先生は、それまでの理系の学生中心の学習支援システムの研究・開発から文系学生を対象とした学習支援システムの開発へと、意識的な方向転換を、さらなる発展をはかられることとなります。最終的に、先生は英語学習支援システムの研究・開発に取り組まれ、『『マルチメディアコンピュータを用いた英語教育ツール』を英語教員が自ら開発する』ことを目的とした教員向け英語教材開発支援ツールの研究・開発に着手され、現在に至っています。もちろん、この分野に於ける先生の業績は輝かしものであり、このことは数多くの論文、学会報告等、さらには科学研究費補助金審査委員(外国語教育)としての活躍から容易に窺い知ることができます。

学部教育では、松野先生には「プログラミング」関連科目を担って頂き、2年次から4年次まで繋がる学部の専門演習では、また大学院博士前期・後期課程の教育においても、熱心に学生のご指導に当たって頂きました。さらに先生には、その他にも学生支援、地域社会への貢献等、様々な分野において言い尽くせぬほどのご成果を残して頂きました。

最後に、当学部を代表して松野先生には謝意を表させて頂くとともに、ご退職後も引き続きご健勝にさらなるご活躍されることを切に念願する次第です。